正しく表示されない場合は、ブラウザで表示させてください。

ICRC

赤十字国際委員会 ニュースレター

12 月号 2023

\ 2023 年 / ニュースハイライト



SNS で話題

今年一番エンゲージメントが高かった投稿はこちら



駐日代表部の公式SNSでも情報を発信中！

写真で振り返る世界の一年

“困難に立ち向かう力”と “苦しみから立ち上がる力”を支える

[HPよりキーワードを入れて検索ください！]



シリア

壊滅的な地震により弟を失ったスリマン君。２月に発生した地震は、12年以上続く紛争を生き抜いてきたシリアの人々をさらに追い詰めました。ICRCは、避難所で暮らす延べ３万人以上に食料や毛布、衛生用品などを提供しました。



イエメン

紛争関連で捕らわれていた973人の解放に伴い、中立的な仲介者として関与しました。「お母さん！今空港にいるよ」。やっと会えた家族と抱擁する場面に立ち合うとき、私たちも特別な思いが溢れます。



ウクライナ

南部のダム決壊は、地域住民の暮らしにさらなる脅威をもたらしました。赤十字ボランティアが被害を受けた人々を安全な場所へといざないます。



メキシコ

消息を絶った夫について語るオルガさん。世界に広がる赤十字・赤新月のネットワークは、一世紀半にわたり行方不明者の追跡調査をおこない、家族を再会へと導いています。



スーダン

６月、激しさを増す戦火を逃れるため首都ハルツームにある孤児院から、子ども280人とケアワーカー70人が郊外の安全な場所に避難しました。４月に戦闘が勃発して以来、ICRCは地元の赤新月社と緊密に連携しながら、病院への医療物資の提供や家族との連絡回復・再会支援などをおこなっています。



アルメニア／アゼルバイジャン

“ナゴルノ・カラバフ”での戦闘により目の前で母親を亡くした少女。避難先のイラクからアゼルバイジャンへ帰還した後も、トラウマに苦しめられていました。紛争の影響を受けた子どもたちに寄り添い、こころのケアを提供することも私たちの大切な仕事のひとつです。



アフガニスタン

収入減や不安定な雇用により、人びとは厳しい生活を余儀なくされています。生活必需品の援助に加えて、現金給付型雇用プロジェクトでは上半期に3,000人以上に雇用機会を提供しました。



エチオピア

「何もかも足りません」。戦闘が続く北部のアムハラ州では、救急車もまともに走れない危険な状態が続いています。医療や栄養問題の改善に向けて現地赤十字社と取り組んでいます。





「好きなだけ水が飲める！」。北部カチン州では、給水システム事業によって過去５年間、遠隔地にいる住民や紛争の影響を受けた11,000人超に清潔な水を提供しています。

９月に発生した洪水で多くの人が亡くなり、行方不明となりました。地元の赤新月社と、食料や医療物資の提供に加えて、遺体の尊厳を守って処置・管理することにも力を入れました。



イスラエル／パレスチナ被占領地

10月７日に戦闘が激化してから２カ月が経ち、その間私たちが目にしたのは、驚くほど凄惨な状況です。ICRCは、この瞬間も紛争当事者や影響力のある人たちと対話を重ねながら、イスラエルとガザ地区、ヨルダン川西岸地区でできる限りの活動を続けています。私たちは、すべての紛争当事者に対して、戦時のルールである国際人道法の順守を強く呼びかけます。

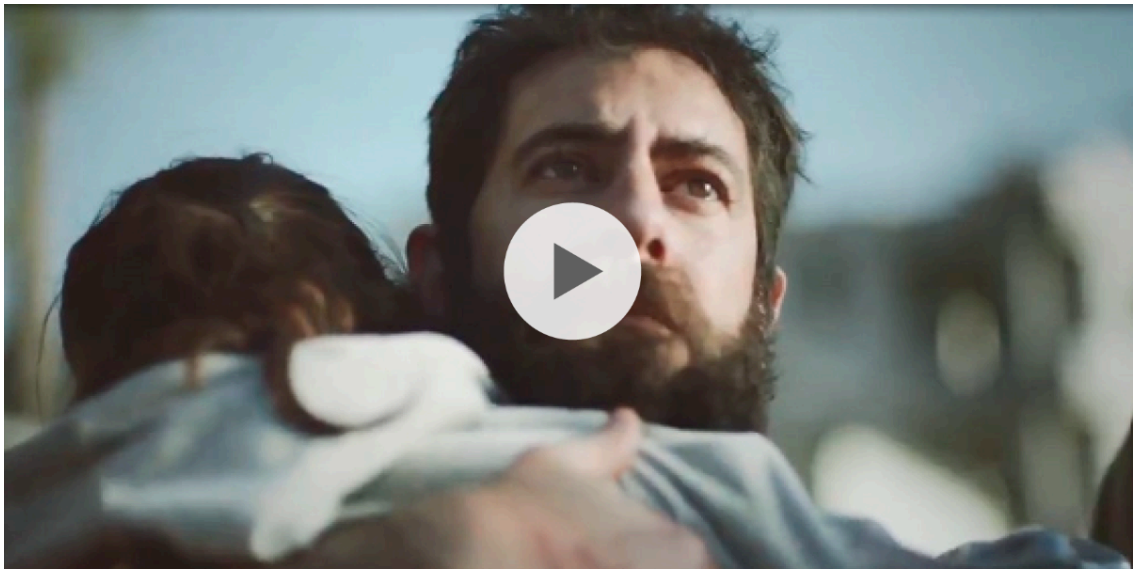
[私たちが公に行動／発言しない理由と、活動のカギを握る “中立性”]

国際人道法と病院の保護



紛争当事者は、病院を含む保健医療施設や、医療を担当する部署・団体、医療従事者、移動手段を攻撃してはなりません。「医療施設への攻撃が正当化されることはあるのか？」国際人道法の観点からお答えします。

武力紛争下では、医療施設や医療従事者、傷病者はどのように保護されるの？



【HOPE（希望：彼女の命を救えなかった理由）】

今年は ICRC 創設 160 周年！





ICRCって何をしているの？

戦争など、圧倒的な暴力の犠牲となっている人たちを一人でも多く救いたい。ICRCの設立から一世紀半以上が経過した現在、私たちの拠点は、100以上の国・地域に及びます。

この160年で変わったこと、変わらないこと

核兵器のない世界の実現に向けて



広島、長崎へ原爆が投下されて78年。ICRCはこれまで、被ばく者の声を伝え、核兵器の非人道性を訴え続けてきました。

11月にはニューヨークで核兵器禁止条約の第二回締約国会議が開催され、日本人のICRCユース代表も現地で積極的に発言しました。ICRCは、引き続き赤十字パートナーと一緒に、核兵器なき世界の実現というゴールに向けて力を尽くしていきます。

SNSを通して現地の様子も伝えてくれました！

国際人道法の普及



10月には自衛隊の協力を得て、文民保護に関するセミナーを東京で初開催しました。国際人道法の下での人道支援従事者と軍側の役割を再認識する場となり、活発な意見交換がおこなわれました。

[「認識の違いを知れたのが貴重でした」自衛隊の高い専門性と真剣さを反映したセミナー]

紛争地で活躍する日本人





第49回フローレンス・ナイチンゲール記章を受章した高原美貴さん。看護師を志したきっかけや、アフガニスタンやスーダンなど12カ国計18回のミッションを通して感じた葛藤な

[リュックサック一つで現場に向かう!]

関心を呼び込み、「自分ゴト」に近づける



「紛争は画面の向こう側の出来事」。「他人ゴト」ではなく「自分ゴト」として関心を持ってもらえるよう、国境なき医師団との合同イベント【人道援助コングレス東京2023】のプレイベントを４月に実施しました。パックンマックンが司会を務め、人道支援をより身近に、そして、日本の自分たちに何ができるのかを参加者と一緒に考えました。



2015年にアジア最大級の国際短編映画祭「ショートショート フィルムフェスティバル & アジア」に立ち上げた「戦争と生きる力プログラムsupported by 赤十字」。同プログラムで今年上映した吉田和泉監督のアニメーション作品「The Bridge（邦題：希望の架け橋）」が、映画祭にエントリーした全5,215作品の中からグランプリを獲得しました。「今がどんなにつらくても、きっと世界のどこかに助けてくれる人がいる。そのことを子どもたちを含め、多くの人たちに知って欲しい」。実話をもとに、ポーランド孤児の日本滞在の日々を描いた作品を通じて監督が伝えたかったメッセージです。

駐日代表部だより



毎年12月１日～25日まで、日本赤十字社はNHKと一緒に募金キャンペーン「海外たすけあい」を実施しています。日本の皆さんから寄せられた善意の一部は、毎年ICRCの活動にも活かされています。今年も残すところ数日となりましたが、世界各地の命と尊厳を守り、人々の生きる力をささえるため、ぜひご協力をよろしくお願いします。

「NHK海外たすけあい」詳細はこちら（日赤ウェブサイト）

駐日代表部より年末のご挨拶



SEASON'S GREETINGS

WISHING YOU ALL THE BEST THIS NEW YEAR

本年も変わらず私たちの活動にご理解・ご関心をお寄せいただき、ありがとうございました。

ロシア・ウクライナ紛争の出口が見えないまま、イスラエル・パレスチナ被占領地での紛争激化に加えて、アフガニスタンやシリア、リビアなどで紛争の犠牲となった人々が自然災害に巻き込まれ、赤十字が各地で奔走しなければならない一年でした。

愛する人と離れ、深い悲しみに打ちひしがれる人びと。行方不明となった家族や友人を探しながら不安な日々を過ごす人びと。わが家を追われ故郷を離れなければならない人びと。今この時も、世界中で助けを必要としている人が数えきれないほどいます。

2024年は、一人でも多くの人が苦しみから解放され、赤十字のサポートが必要なくなる日が来ることを願わずにいられません。そうした日が到来するまで、戦時下の人々の命と尊厳に寄り添いながら、不安や絶望を希望に変えられるよう、スタッフ一同力を尽くしてまいります。

その他のニュースはこちら

E-newsletter のアーカイブはこちら

配信停止をご希望の方は、お手数ですがこちらよりお手続きください。
ICRC駐日代表部のプライバシーポリシーはこちらでご確認できます。

